

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-122-(2面)
- ・ファーム山下 開拓3世が発表 (3面)
- ・三方原一三幸一展示 神社を勧進、開拓に尽力 (4面)
- ・「菌寄生菌」でメロンうどんこ病抑制 (5面)
- ・食農講座で中島さん(北海道)が発表 (6面)
- ・口蹄疫対策ポイント解説 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

連盟・振興協会が総会開催

23年度運動方針を決定 連盟

畜産・酪農の経営安定対策強化など

全日本開拓者連盟の第78回通常総会が6月9日、東京・市ヶ谷の「アールデア市ヶ谷」で開催された。

菊地文夫委員長の開会挨拶(要旨)の後、佐賀県開拓畜産事業協同組合の井上富男代表理事が議長に就任し、理事長が議長に就任され、議事に入った。

まず、第1号議案「22年度運動報告及び決算承認について」が上程され、吉川事務局長による議案説明、石原文義監事の監査報告を受けて、原案どおり承認された。

次に、第2号議案「23年度運動方針について」が上程され、承認された23年度運動方針は、基本方針として「国内農畜産業を守ること」を基本に、「開拓畜農の持続的発展」と「畜産及び酪農経営の安定」を念頭に農政運動を展開する。

①畜産・酪農の経営安定対策と生産基盤の拡充、強化運動②牛肉・豚肉

・牛乳乳製品等国内畜産物消費拡大運動③貿易協定発効等に係る対応運動④震災・原発被害からの早期復興と経営再建安定化運動⑤政治活動への支援運動⑥開拓畜農振興のための組織活動の維持・強化運動⑦新型コロナウイルスによる経営悪化からの経営再建運動。

その後、吉川事務局長が宣言案を読み上げ、満場の拍手で採択し、閉会した。

【宣言要旨】
 国際社会のグローバル化が急速に展開し、国の安全保障がその重要性を増すなか、日本の将来を見据えた確固たる農業政策の構築と、自給率向上による食料安全保障の確立を引き続き強く求めていく。

全日本開拓者連盟は、専門農家集団である開拓農家の代表として、日本農業の果たす食料安定供給と地域社会の持続的発展や多面的機能を維持し、次代を担う若者が夢を実現できる農業を構築するため、運動を展開するものである。

足腰の強い開拓畜農へ

開拓畜農振興事業を拡充 振興協会

6月9日、全国開拓振興協会は連盟に続き、第11回定時総会を開催した。20会員16会員の本人出席と、4会員の書面議決書行使で、総会は成立した。

西谷悟郎会長の開会挨拶(2面に要旨)後、西谷会長が議長となり、議事に入った。

まず、報告事項①「22年度事業報告の件」と第1号議案「22年度事業報告の附属明細書、貸借対照表、正味財産増減計算書等の承認の件は関連があるため一括上程され、松本納広専務理事の議案説明を受けて、報告事項は了承され、議案は原案どおり承認、決定した。

23年度の事業は、開拓畜農振興事業を大幅に拡充する。開拓関係諸行事事業の中から、会員が選定して実施する開拓畜農支援対策、開拓畜農推進対策及び開拓畜農支援強化対策(新設)に対して助成し、将来に向けて足腰の強い開拓畜農、開拓農家を育成していく。

海外研修は今年度も現地研修は見送り、現地の農業情勢や最新技術を紹介しての動画配信を行う。

今年度は、全国代表者大会を、全国開拓青年・女性研修会に合わせて、全日本開拓者連盟と全国開拓畜農協同組合連合会との共催により東京で開催する。

危機的状況に支援を

24年度予算編成で要請

全日本開拓者連盟は6月8日・9日、畜産・酪農政策実現運動を展開した。8日、全開連会議室で「24年度畜産・酪農政策並びに予算要請打合せ」を開催。各フロクからの意見・要望を踏まえ、要請事項を協議した。

翌9日、菊地委員長をはじめ新津賢典全開連会長、西谷悟郎振興協会展長ら開拓中央三団体役員7名が農水省の藤木真也農林水産大臣政務官を訪ね、要請書を手渡しした。

要請事項は①国内畜産・酪農の経営安定対策と生産基盤の拡充、強化②畜産関連補助事業の拡充③コロナ禍で疲弊した畜産・酪農経営再建対策④国際貿易協定発効に伴う関連対策の拡充⑤環境・衛生対策等関連諸対策の拡充⑥震災復興関連対策の拡充⑦畜産連携を深めて粗飼料基盤を強化し、自給飼料を増やしていくことが一番の対策になる。畜産の原点である草作りを立て直していくので、ご協力いただきたい」と述べた。



右から2番目が藤木政務官

官は「現在の状況は異例中の異例で、補正ではなく予備費を使って1200億円拠出している。農業全体に目を配らなければならない。前向きな経営にはいろいろと予算をつけていることはご理解いただきたい。耕畜連携を深めて粗飼料基盤を強化し、自給飼料を増やしていくことが一番の対策になる。畜産の原点である草作りを立て直していくので、ご協力いただきたい」と述べた。

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

韓国で口蹄疫発生

万全の態勢で感染防止

韓国で4年ぶりに口蹄疫が発生した。5月22日の農水省発表によると(出展:韓国農林畜産食品部)、5月10日に韓国中部の地域(忠清北道)にある農場で、牛の感染が確認された。

韓国での口蹄疫の発生は4年ぶりであり、その後、周辺でも相次いで確認され、5月22日の時点で合わせて11件の報告されている。11件のうち1頭が山羊で、その他は牛である。

発生地は当初、忠清北道の清州市に集中していたが、6例目は10〜20キロ離れた首坪郡でも確認された。これらの地域はいずれも畜産が盛んなところで、感染拡大の可能性がある。

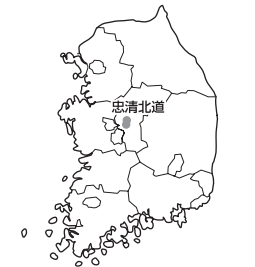
韓国農林畜産食品部は、拡大の防止策として全偶蹄類の緊急ワクチン接種を行うこととした。現在まで(6月12日時点)新たな感染の報告はないようだが、まだまだ警戒は必要だ。

日本国内では、00年と10年に発生して甚大な被害となったが、いずれも韓国で発生した後の発生となっている。

韓国からの旅行者の数は今年に入って4月までに200万人を超え、コロナ禍前の8割近くまで回復している。

それぞれの畜舎で万全の防御対策で備えたい。(7面で対策記事)

韓国における口蹄疫の状況 (2023年5月以降)



発生地は当初、忠清北道の清州市に集中していたが、6例目は10〜20キロ離れた首坪郡でも確認された。これらの地域はいずれも畜産が盛んなところで、感染拡大の可能性がある。

韓国農林畜産食品部は、拡大の防止策として全偶蹄類の緊急ワクチン接種を行うこととした。現在まで(6月12日時点)新たな感染の報告はないようだが、まだまだ警戒は必要だ。

日本国内では、00年と10年に発生して甚大な被害となったが、いずれも韓国で発生した後の発生となっている。

韓国からの旅行者の数は今年に入って4月までに200万人を超え、コロナ禍前の8割近くまで回復している。

それぞれの畜舎で万全の防御対策で備えたい。(7面で対策記事)



菊池 潤 委員長の総会挨拶

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、世界的な物流の混乱、停滞に加え、ロシア・ウクライナ戦争、円安による諸物価高騰から、食料安全保障の観点から、しっかりと進める必要と発言しています。

これからは広大な土地に根差した農業を實踐している開拓者が、日本の農業を支える時代がまいります。

その中で、当連盟も組合員の「開拓農業の持続的発展」と「経営安定政策」の実現を念頭に、活動を進めてまいります。

我が国畜産業を取り巻く状況に目を向ける者として農業従事者の減少と高齢化が続いております。

中山間地域などの厳しい立地条件の下で、畜産・酪農、高冷地野菜、果樹等の分野で意欲的に経営に取り組んでいる開拓農家の一層の発展と相互交流を促進することにより、開拓農業の持続的発展を図り、国民により安心・安全な食料を安定的に供給していくことが食料安全保障の観点からも重要であると考えます。

このため当協会では、従来から組織運営の簡素化、合理化を徹底し、これまで実施してきた事業の成果などを踏まえ、事業内容の充実と努めるとともに、開拓農業振興事業などの会員、開拓農家のための事業を着実に実施することにより、開拓農業の持続的発展に寄与してまいります。

23年度予算では、厳しい経営環境の下にある今年度こそ経営基盤の強化を図り、将来に向けて足腰の強い開拓農業、開

西谷 隆雄 会長の総会挨拶

我々全国の開拓者が、その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するため、共に闘おうではありませんか。

さて、本日の総会議案は第1号議案から第5号議案、そして宣言案採択であります。我が国農業を巡る諸情勢と諸問題を分析・検討し、23年度の運動方針を提案します。皆様の絶大なご協力によりお願い申し上げます。

同時に、提案した運動方針の実現に向け、開拓組織が一丸となって取り組んで行きますよう、節にお願ひ申し上げます。

拓農家を育成していくことが重要との考えの下に、開拓農業振興事業を大幅に拡充して会員、開拓農家を支援してまいります。

一方、昨年度の経常収益につきましては、年間を通じた円安の影響により仕組債から高い利息収入が得られたことから、約1億2千万円の収益を確保することができました。

事業を円滑に実施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より重要であります。本年度も関係者の皆様と一層緊密な連携の下に事業を実施してまいります。

我々全国の開拓者が、その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するため、共に闘おうではありませんか。

さて、本日の総会議案は第1号議案から第5号議案、そして宣言案採択であります。我が国農業を巡る諸情勢と諸問題を分析・検討し、23年度の運動方針を提案します。皆様の絶大なご協力によりお願い申し上げます。

同時に、提案した運動方針の実現に向け、開拓組織が一丸となって取り組んで行きますよう、節にお願ひ申し上げます。

拓農家を育成していくことが重要との考えの下に、開拓農業振興事業を大幅に拡充して会員、開拓農家を支援してまいります。

一方、昨年度の経常収益につきましては、年間を通じた円安の影響により仕組債から高い利息収入が得られたことから、約1億2千万円の収益を確保することができました。

事業を円滑に実施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より重要であります。本年度も関係者の皆様と一層緊密な連携の下に事業を実施してまいります。

我々全国の開拓者が、その土地に根ざした健全な農業経営の確立と地域の活性化を推進するため、共に闘おうではありませんか。

さて、本日の総会議案は第1号議案から第5号議案、そして宣言案採択であります。我が国農業を巡る諸情勢と諸問題を分析・検討し、23年度の運動方針を提案します。皆様の絶大なご協力によりお願い申し上げます。

同時に、提案した運動方針の実現に向け、開拓組織が一丸となって取り組んで行きますよう、節にお願ひ申し上げます。

拓農家を育成していくことが重要との考えの下に、開拓農業振興事業を大幅に拡充して会員、開拓農家を支援してまいります。

一方、昨年度の経常収益につきましては、年間を通じた円安の影響により仕組債から高い利息収入が得られたことから、約1億2千万円の収益を確保することができました。

事業を円滑に実施し、所期の成果を上げるためには、会員及び関係機関、団体各位のご協力が何より重要であります。本年度も関係者の皆様と一層緊密な連携の下に事業を実施してまいります。

食料・農業 知っておきたい話 第122回

失われる消費者の選択権

〜どう対処するか〜

東京大学教授 鈴木宣弘氏

前回解説したとおり、この4月から、酪農・畜産の飼料も含めて、「遺伝子組み換えでない」表示が実質できなくなつていく。表示の厳格化の進む中で行われた「GM非表示制度」というのが実質である。

厳格化といいつつ、日本のGM食品に対する義務表示は緩いから、まあよい。問題はnon-GM表示を認めていることだ。GM食品は安全

だど世界的に認められておられるのに、そのような表示を認めるとGMが安全でないかのように消費者に誤認させるからやめるべきだ。続けるならばGMが安全でないという科学的証拠を示せ」という米国の要求をピツタリ受け入れただけになっていく。どう対処するか。

牛乳のnon-GM表示を無効化されても負けたかった米消費者

乳牛の乳量増加のため遺伝子組み換え成長ホルモン(rBST、商品名はポジラック、モンサント社開発)は、日本国内では未認可だが輸入は約40年前に、筆者はこれら三者の関係を「疑念の

食料・農業・農村基本法改正に向け

国民一人一人の食料安全保障

農水省の「食料・農業・農村政策審議会」基本法検証部会」は5月29日、中間とりまとめを行った。

今後20年で予期される課題として、平時における食料安全保障、国内市場の縮小、農村人口の減少による集落機能の一層の低下などが上げられる。このような変化を見

もされていない日本では、米国のrBST使用乳製品は港を素通りして、消費者は知らずにそれを食べている。所管官庁と考えられる省は双方とも「管轄ではない(所管は先方だ)」と言っていた。

筆者は、1980年代から、この成長ホルモンを調査しており、米国のインタビュー調査を行ったが、「絶対大丈夫、大丈夫」と、認可官庁とM社と試験をしたC大学が同じテーマを何度も聞くような同一の説明ぶり「とにかく何も問題はなし」と大合唱していた。

約40年前に、筆者はこれら三者の関係を「疑念の

据え、現行基本法の基本理念や主要施策等を見直すこととしている。

基本理念の見直しの方

向として、次の4項目を挙げていく。

国民一人一人の食料安全保障の確立。▽環境等に配慮した持続可能な農業・食品産業への転換。▽食料の安定供給を担う生産性の高い農業経営の

育成・確保。▽農村への移住・関係人口の増加、地域コミュニティの維持、農業インフラの機能確保。

また、各施策について、食料・農業・農村政策審議会が「食料・農業・農村政策」の見直しの大枠に当たる「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

水田における作付意向

WCS用稲33県で増加傾向

農水省は6月9日、23年度の水田における作付意向について、都道府県別の第2回中間的取組状況

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

政府は、中間とりまとめに對する意見を募集し、全国各地で意見交換の通常国会への提出を目指す。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

水田における作付意向

WCS用稲33県で増加傾向

農水省は6月9日、23年度の水田における作付意向について、都道府県別の第2回中間的取組状況

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

水田における作付意向

WCS用稲33県で増加傾向

農水省は6月9日、23年度の水田における作付意向について、都道府県別の第2回中間的取組状況

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

「食料・農業・農村政策」種については次のようにまとめた。

ファーム山下 開拓3世

西日本酪農青年女性会議で発表

本紙2月号(778号)が、4月6日に行われた紹介した鳥取県西伯郡 西日本酪農青年女性会議大山町の戦後開拓農家で、の研修会「SPRINGある「ファーム山下」の MEETING2022 山下大介さん(開拓3世) 3」で挨拶・発表を行った。



写真提供：全酪連 大阪支所

当日は7地域から64名が参加。第1部では東伯郡琴浦町の大山乳業農協の工場で、牛乳・ヨーグルトの製造等を視察。第2部では鳥取県琴浦町生涯学習センターで、同農協指導部の今吉正登次長が乳質改善の取り組みについて、販売部の川上一敏部長が販売活動などの概要を講演した後、意見交換が行われた。

牧原牧場(株)2冠達成 薩州開拓農協肉牛共進会

薩州開拓農協は5月19日、鹿児島県阿久根市のスターゼンミートプロセス(株)阿久根工場で第13回肉牛共進会を開催した。今回は、交雑種の部に18頭(去勢12頭、雌6頭)、黒毛和種の部に12頭(去勢4頭、雌8頭)の魅力を発信すること、消費を拡大していくには大山乳業青年部の会長を務めており、パネルディスカッションでも、他の登壇者3名と意見交換

直も始めたいと語り、酪農の置かれている厳しい状況に立ち向かうべく、意気込みを訴えた。西日本酪農青年女性会議では「酪友ファーム」も企画されており、酪農家同士の交流・情報交換を促していく予定。

曾祖父の戦前の薩州での取り組みに始まり、祖父の代から受け継いできた開拓を守りながら、大介さんは今後も多岐に渡る精力的な活動を続けていく。

交雑種の部全体の成績は、平均枝肉重量が53.6・3kg(去勢53.3・9kg、雌54.1・1kg)、肉質3等級以上比率77.8%、4等級以上比率44.4%。各測定値の平均値は、ロース芯面積57.4・2cm、BMS No.11・3、バラ厚7.7cm、歩留基準値77.8だった。入賞牛の出品者は次のとおり。

鈴木稔さん見事第2位

全日本B&Wシヨウ第9部

第10回全日本ブラックアンドホワイトシヨウ並びに2023セントラルジャパンホルスタインシヨウが4月14・15日に静岡県の鈴木稔さんの出品牛が、第9部(シニア3歳クラス)において見事第2位を獲得した。今年大会は、全国ホルスタイン改良協議会と

価格転嫁で需要減

脱脂粉乳の在庫増再び

Jミルクは5月26日、23年度の生乳・牛乳乳製品の需給見通しを発表した。全国の生乳生産量は、741万8千ト(前年比98.5%)と、2年連続減産の見込み。

全戸で拓いた美しい故郷

長崎県・雲仙開拓(東原地区)



長崎県雲仙市瑞穂町の雲仙開拓(東原地区)は、島原半島の北部で、雲仙岳の北側山腹斜面に位置している。標高は250〜320m、地質は火山灰土であり、酸性土となっており、雲仙岳を背に、有明海を臨む風光明媚な開拓地だ。46〜47年にかけて、海外からの引き揚げ者を中心に20戸が入植した。この東原地区はほぼ雑木林で、トウグワ一本の道具だけで木の根を掘り、開墾した。雪が降れば布団が白くなるような小屋に住みながら苦闘を重ね、20戸が互いに励まし合い、時には競い合いながらの生活だった。この土地は火山灰土ながら肥えていて、温暖な気候を活かした麦、バレイシヨ、サツマイモなど、各種野菜作りは比較的良好だった。51〜58年頃にかけて毎年のように台風

開拓組織の動き

6月後半から7月前半にかけて予定されている、開拓組織の主な行事は次のとおり。

- 6月 豊橋農協第26回通常総会
- 21日 肥後開拓農協第15回通常総会
- 22日 ゆづき青森農協第13回通常総会
- 23日 シヤパンピー農協第23回通常総会
- 27日 佐賀県開拓畜産事業第7回通常総会
- 28日 開拓ながさき農協第14回通常総会
- 29日 静岡県開拓農協連第75回通常総会
- 7月 香取開拓農協第76回通常総会
- 19日 全開連・全日本開拓者連盟臨時総会

静岡 三方原

「三幸」展示 ウォークラリーも 神社を勧進、開拓に尽力

本紙第771号で紹介した、浜松市立都田図書館で行われた三方原の戦後開拓の展示が、今年も行われている。取り上げられているのは、神社や太鼓を地域の絆として開拓に取り組んだ、「三幸」開拓。展示内容を紹介します。

展示期間は、6月13～30日。

三幸開拓は、終戦後間もない46(昭和21)年頃、小笹が縦横無尽に茂る赤土の広大な土地で、旧日本軍の演習地の跡地だった。46年1月に入植地の割り当てをくじ引きで行い、引いた番号の土地へと開拓者は入植した。これから作るという。痩せ地でほとんど作物が実らず、下町へ荷車を引いて下肥取りに行つて肥料にしたり、静岡からのダストを入れて土壌の改良に取り組んだ。49年には不発弾で4人の子どもたちが死傷する痛まし

三幸神社の祭屋台



三幸神社の祭屋台

当時の水争いを防いだ円筒分水



写真提供：都田図書館・浜松地域まちづくり協議会



都田図書館の展示の様子

い事故が起きるも、開拓の鉄は止めず、諦めなかつた。50年には三方原西瓜市場で西瓜が好評となり、53年には三方原鈴響の共同出荷が始まった。苦しい生活の中、開拓者は心の安定を願い、55年に神社を勧進、建立した。最初は小さな神社だったが、秋には収穫を祝う祭りを始め、元日祭は夜を徹して行われた。毎日の重労働の中でも、開拓者は神社を心の拠り所に踏ん張つた。

子どもたちの楽しみにするものを作り、威勢よく頑張ろうという気持ちを込めて、82年から「三幸」子ども太鼓を始め、神社と、勇ましい音を響かせる太鼓で地域の結束を強めながら今日まで来た。

円筒分水の元、水を公平に分け合いながら、コ

メ作りにも取り組んだ。開拓後の山村の状況が色濃く残っていることなどが評価され、22年、三幸開拓は市の地域遺産に認定された。

心の拠り所の神社や太鼓と一緒に、現在も「三幸町」となった三幸開拓の開拓者たちは元気に暮らしている。

ウォークラリー開催 北地域まちづくり協議会 展示の作成に協力している浜松北地域まちづくり協議会では、6月24日に「認定文化財認定記念ノルディックウォーク」を企画する。三幸開拓をめぐる在り方を学ぶウォークラリーとなっている。

農作業中熱中症に要注意 3月から既に死者発生

今年5月から既に3月

今年5月から既に3月、6月になると初夏も本格的になるため、農作業中の熱中症に十分注意が必要となる。

農水省の推奨する対策を確認したい。

塩分や水分をこまめに補給すること、心かげる。熱中症による死者はなんと3月から発生している。20分おきを目安にこまめに休憩を取り、喉がかわく前に塩分タブレットや、スポーツドリンクなど水分を摂取する。

暑い時間には無理に作業をしない

高温時の作業は極力避ける。作業時も日陰や風通しの良い場所での作業

ラベル表示事項徹底を 農薬危害防止運動実施中

農水省は4月28日、「23年度農薬危害防止運動」を実施すると発表した。

6～8月に重点的に注意喚起を行う。

農薬の不適切な使い方による使用者自身や周辺住民、家畜などに関わる事故の発生や、農産物から基準値を超える農薬が検出される事例が依然として発生している。

23年度のテーマは「守ろう農薬ラベル、確かめよう周囲の状況」

ラベルの表示事項を守る

こと、周辺への農薬の

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍



ファン付きウェア、ネッククーラー

農水省の資料から

暑い時間帯の作業が避けられない時には、帽子や吸湿速乾性の衣服・空調服、ネッククーラー、冷却ベストなどを活用。

熱中症による死者はなんと3月から発生している。20分おきを目安にこまめに休憩を取り、喉がかわく前に塩分タブレットや、スポーツドリンクなど水分を摂取する。

暑い時間には無理に作業をしない

高温時の作業は極力避ける。作業時も日陰や風通しの良い場所での作業

農水省は5月15日、22年度の「農業委員への女性の参画状況」を公表した。女性農業委員の登用は増加が続いている。

全国の女性農業委員は2905人で、前年から36人増。全農業委員(2万2995人)に占める割合は12.6%(0.2%増)で、増加が続いている。

女性農業委員が登用されている委員数は1454団体で、前年度から6団体増え、全農業委員

農水省は5月15日、22年度の「農業委員への女性の参画状況」を公表した。女性農業委員の登用は増加が続いている。

全国の女性農業委員は2905人で、前年から36人増。全農業委員(2万2995人)に占める割合は12.6%(0.2%増)で、増加が続いている。

女性農業委員が登用されている委員数は1454団体で、前年度から6団体増え、全農業委員

22年度 登用増加が続く

女性農業委員12.6%に 登用増加が続く

農水省は5月15日、22年度の「農業委員への女性の参画状況」を公表した。女性農業委員の登用は増加が続いている。

全国の女性農業委員は2905人で、前年から36人増。全農業委員(2万2995人)に占める割合は12.6%(0.2%増)で、増加が続いている。

女性農業委員が登用されている委員数は1454団体で、前年度から6団体増え、全農業委員

守ろう農薬ラベル 確かめよう周囲の状況

- ラベルの確認
- 周辺への配慮
- 飛散の防止
- 風通しに記録
- 土壌くん蒸剤は必ず被覆
- 施設して保管

令和5年度農薬危害防止運動

「菌寄生菌」でメロンうどんこ病抑制 新たな防除法として期待

単一菌叢	菌寄生菌の 処理回数	単一菌叢内での正常な分生子柄の数(本)		胞子の放出 回数(日)	胞子の放出数(個) ²⁾
		菌寄生菌の処理前	菌寄生菌の処理後 ¹⁾		
5日目	0回	15.4±4.0 a	1409.0±100.1 a	28.2±2.2 a	124761.0±12157.4 a
5日目	1回	12.0±10.6 a	0 b	4.6±0.9 b	156.2±108.3 b
10日目	1回	752.1±170.4 b	0 b	8.2±0.8 c	1167.0±745.9 c
15日目	1回	1130.7±145.9 c	864.8±91.2 c	24.6±3.0 d	61530.4±8785.3 d

近畿大学の資料から

うどんこ病は、農作物、雑草、樹木など様々な植物で発生する身近な植物の病気である。農業では、うどんこ病が発生すると収量などに悪影響を与えるため、重大な植物病害の1つとなっている。一般的に、防除には化学農薬が使われるが、環境への負荷や薬剤耐性菌の出現もあり、化学農薬に依存しない新たな防除法の開発が求められている。

そこで、近畿大学の研究グループは、メロンうどんこ病(以下、同病)に寄生するカビ(同病菌に寄生し、増殖す

発病した様子



写真提供：近畿大学

る。この菌を「菌寄生菌」という)の感染行動を観察・解析した。その結果、同病の発生初期段階に菌寄生菌の胞子液を噴霧することで、同病菌の胞子放出を抑制し、感染拡大を防止できることを世界で初めて明らかにした。

実験では、同病菌の胞子を顕微鏡下でガラス針を用いてメロン葉に感染させた。感染から5日目、10日目、15日目の葉に菌寄生菌を噴霧して、それぞれの葉から放出された同病菌の胞子数を数えた。

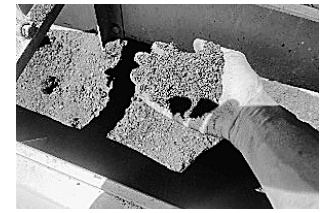
その結果、菌寄生菌を噴霧しない場合、約28日間胞子を放出し続け、生涯で約12万個放出した。感染5日目に噴霧した場合では、処理後約4日で胞子放出を停止し、胞子放出数は288個にまで抑制された。感染10日目に噴霧した場合も、処理後約8日で停止し、放出数は962個と効果が見られた。しかし、感染15日目に噴霧した場合、停止に24日も要し、放出数も7万2734個という

汚泥を肥料原料に活用推進 事例集やリーフレット公開

現在、肥料原料は多くを輸入に頼っているが、以前よりも輸入が困難な状況となっている。そのため、国内の未利用資源を活用して、原料を安定確保することが重要となっている。未利用資源のうち下水道汚泥については、肥料などへの農業利用が約10%程度となっており、さらに利用拡大できる余地がある。

そこで関東農政局は、汚泥肥料の利用を促進することを目的として、22年度に「汚泥肥料の活用推進プロジェクト」を実施した。同プロジェクトでは、汚泥肥料を利用する上での利点と課題を調査し、各種の事例集やリーフレットを作成。ホームページで公開している。

資料の1つである「汚泥肥料を利用している生産者事例集」では、実際に汚泥肥料を施用している生産者の事例を作物別に紹介している。事例として



関東農政局の資料から

は、ブロッコリー、タマネギ、ネギ、レタス、キャベツのほか、参考事例としてトウモロコシ、牧草やリンゴなどで施用試験を行った結果も紹介されている。そのほかにも、品質管理に取り組む汚泥肥料生産業者マップなどもあるので、取り組みの参考にしたい。

同プロジェクトのホームページは、「汚泥肥料の活用推進プロジェクト調査事業」と検索するか、QRコードからアクセスすることができる。



スマートフォンをお持ちの方は
こちらから

結果となった。

これらから、同病の感染拡大を防ぐためには、発生初期段階で菌寄生菌を感染させることが、効果的な防除につながる事が判明した。また、同病菌は夜間に胞子を放出しないことから、

菌寄生菌の噴霧は夜間に行うことで防除効果がさらに上がるとしている。

同グループは、今後はさらに他植物の同病に対する防除効果を検討するとともに、生物防除資材(微生物資材)の開発に取り組んでいく予定だ。

春・夏秋野菜は減少もタマネギ11%増 22年産指定野菜収穫量

農水省が4月28日に公表した「21年産指定野菜(春野菜、夏秋野菜等)の作付面積、収穫量及び出荷量」によると、全国の収穫量は前年産に比べ、春野菜は1%減、夏秋野菜は3%減と減少したが、タマネギは11%増となった。

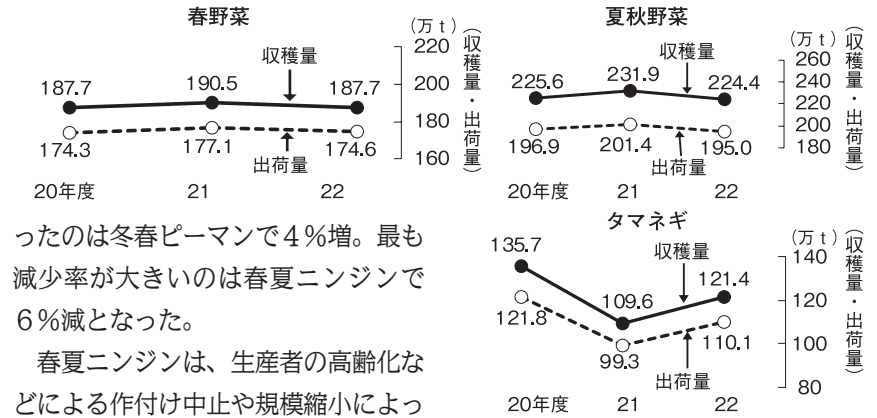
〈春野菜〉

作付面積は、3万4000haで前年産よ

り600ha(2%)減少した。収穫量は2万8000t(1%)減の187万7000t、出荷量は2万5000t(1%)減の174万6000tとなった。

10品目の収穫量をみると、春ネギ・冬春ナス・冬春ピーマン以外の7品目で前年産に比べ減少している。冬春ナスは前年産並み。増加率が最も大きか

22年産春野菜、夏秋野菜、タマネギの作付面積、収穫量及び出荷量(全国)



ったのは冬春ピーマンで4%増。最も減少率が大きいのは春夏ニンジンで6%減となった。

〈夏秋野菜〉

作付面積は、6万100haで前年産より1300ha(2%)減少した。収穫量は7万5000t(3%)減の224万4000t、出荷量は6万4000t(3%)減の195万tとなった。

10品目の収穫量をみると、夏ハクサイ・夏秋レタス・夏ネギ・夏秋キュウリの4品目が増加または前年産並みで、他6品目は減少した。増加率が最も大きかったのは夏ハクサイと夏秋レタスで、ともに3%増。一方、最も減少率が大きかったのが秋ニンジンで17%減だった。

夏ダイコンは生産者の高齢化などの労力事情での作付中止や規模縮小があった。また、青森県などで7月中旬から8月中旬の日照不足で根部の肥大が

抑制されたこともあり、10a当たり収量は200kg(5%)減、出荷量も8%減少している。

秋ニンジンも同様に作付中止や規模縮小があったほか、北海道で作柄の良かった前年産に比べ、7月の日照不足により肥大が抑制されたため、10a当たり収量は14%、収穫量は17%と、ともに大きく減少した。

〈タマネギ〉

作付面積は2万5200haで前年産より300ha(1%)減少した。収穫量は11万8000t(11%)、出荷量は10万8100t(11%)と大きく増加した。

10a当たり収量も520kg(12%)増の4820kgとなった。これは、北海道が作柄の悪かった前年産に比べ天候に恵まれ、生育良好で大玉傾向となったためと同省は分析している。

シャイン未開花症30県で発生 農水省 原因特定には至らず

農水省は、4月11日~28日までの間、47都道府県に対しシャインマスカットの未開花症の発生状況についてアンケート調査を行った。調査結果が5月19日に公表された。

未開花症については、作付けされている46都道府県のうち30で、東北から九州まで広く発生が確認された。発生していると回答した30のうち19において品質・収量の低下の発生報告があった。発生した年や地域について一定の傾向は見られず、園地や樹体によって発生の仕方が異なっており、発生に一定の傾向は見られないとの回答が多くを占めている。

発生状況の報告では、「同じ地域でも発生程度にバラツキがある」など発生に一定の傾向が見られないとする意見が多かった。

考えられる発生要因については、発生事例に一定の傾向が見られないこともあり、具体的な回答のない県が多くを占めている。回答のあった考えられる発生要因については、気象要因や着果負担、施肥量、養分の過不足、樹勢の強弱の影響が報告されている。

同省は、さらなる原因究明及び対策の確立に向けて発生実態の調査と園地の状況調査を進める予定だ。



輝く女性 食農講座で開拓酪農家が発表 農業者 中島さん(北海道) 4代目へ継承目指す

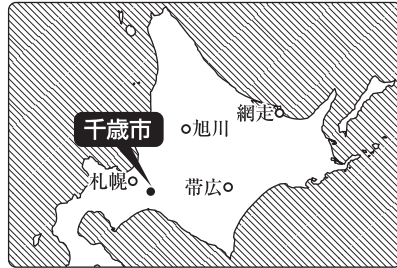
地域で集い、開拓営農と農畜産物の消費の推進に努める戦後開拓酪農家がいる。複数の開拓農家が参加する「千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会(以下、GT協議会)」の活動と、中島以知子さん(61歳)と妹・安佐子さん(58歳)が経営する合同会社なかじま農園の歴史を紹介する。

～GT協議会での開拓農家の皆さんの活躍～

「GT協議会」は、食農講座や、直売所や農場巡りのバスツアーの開催などを主な活動内容としており、グリーン・ツーリズム(農山漁村で、自然などとの交流を通じた体験を楽しむ滞在型の余暇活動)の普及を図り、観光客誘致のための活動などを実施すること



安佐さんが栽培している大豆畑



を目的に結成された。「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクールで奨励賞を受賞している。

3月4日に開催された食農講座「食品ロスの削減に向けて」では、複数の開拓農家が発表。副会長である中村由美子さんの牧場(中村牧場)からは、ブロッコリーの葉など捨てられてしまう部分を使った節約レシピや酪農経営の厳しい現状について、なかじま農園からは、長期保存ができ栽培が比較的簡単な新顔野菜(コールラビ、テーブルビーツ)についての紹介があった。

～なかじま農園の歴史～

以知子さんと安佐子さんの祖父・治郎さんが終戦で旧満州の開拓から、父・太助さんと太助さんの姉妹の、はるのさんと3人で長野県に帰国。その後、47(昭和22)年、北海道の上長都へ入植し、53年に国有貸



「千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会」の開拓農家女性後継者の皆さん(向かって左から中村由美子さん【中村牧場】、中島以知子さん【なかじま農園】、小路信子さん【小路農園】)



以知子さんの姪御さんの綾子さん
写真提供: 3枚全て中島以知子さん

付牛を導入。56年に自衛隊の演習地として買収されたことから、現在の千歳市中央へ再入植。なかじま農園がスタートした。

経営が父・太助さんと母・咲子さんに移った後、安佐子さんが酪農を受け継ぎ、以知子さんは経理担当としてなかじま農園に携わる中で、自家消費用に野菜栽培もスタート。将来の事業展開を見据え、観光農園を開設した。現在では野菜直売と収穫体験なども行っ

ている。

牧場で育成牛24頭を飼養しながら、牧草を育てつつ小麦と大豆も栽培。牧場は以知子さんの姪・綾子さんが後継する予定で、今後の展望を模索中。体験農園(千歳市北光)は150㎡ほど。

今後のなかじま農園の目標は、無理せず背伸びせず、次世代の負担をなるべく減らした上でバトンタッチを行うこと。次世代の経営者として未来を見つめる綾子さんの活躍が楽しみだ。

オガ粉の1/10以下で完熟たい肥 敷料 薄層加工資材、乳房炎抑制効果も



(写真1) 薄層加工資材



(写真2) 薄層加工用超仕上げカンナ盤



写真提供: 写真1、2ともに道総研

飼養管理改善で高騰対策 開拓豚友の会研修会から②

全開連主催の「開拓豚友の会」で発表された養豚に役立つ技術を、前号に引き続き紹介する。現在、飼料など資材の高騰は著しく、少しでも工夫できる点を改善したい。佐賀県畜産試験場は発表で、実際にコストカットが行えた事例を紹介した。

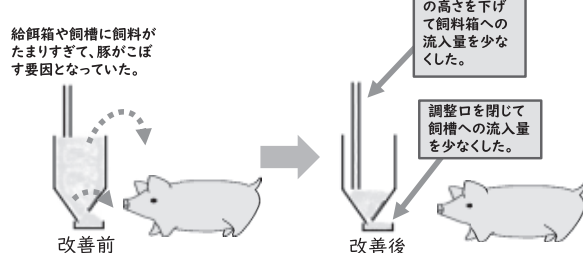
●給餌箱から飼料が多くこぼれていたある農場で、同試験場が経営診断の際に給餌箱からの飼料のこぼれを指摘したところ、肥育豚1頭当たり約20kgの飼料を低減することができた(図)。

この農場の給餌箱は、飼料がいっぱいに入り、重量圧と調整口が広く必要以上に飼料がでることで、飼料がこぼれやすくなっていた。

こぼれを防ぐために、給餌箱に入れるパイプを長くして流入量を制限するとともに、飼料が出てくる調整口を狭めて出てくる量を調整した。

給餌箱を調整することにより、年間出荷を2000頭、飼料代を70円/kgで試

飼料箱(横からの断面図)



給餌箱や飼槽に飼料がたまりすぎて、豚がこぼす要因となっていた。

改善前

改善後

佐賀県畜産試験場の資料から

算すると、年間280万円の飼料費低減効果を得ることができた。

飼料が出る量を抑えすぎても豚のストレスになるため、調節は慎重に行う必要があるが、うまく調整することで、かなりのコストカットにつながる。

●衛生管理を徹底することで、呼吸器病を中心に疾病の低減を図ることができ、19年から約4日、20年から約1日、出荷日齢を短縮することができた。仮に2日短縮した場合、(年間出荷を2000頭、飼料代を70円/kgで試算すると、)年間98万円の飼料費低減効果へとつながる。

現在の飼養施設を活かして取り組める工夫を行うことで、少しでもコストカットをしていきたい。

酪農経営の厳しさは現在も続いており、少しでも資材費の節約ができる技術を取り入れたい。北海道立総合研究機構は木材を「薄層加工資材」に加工して敷料にし、コストカットをしながら効率性を高める技術を開発。特許を取得した。

薄層加工資材(写真1)は、木材を0.05~0.1mm程度の薄さに加工する。「超仕上げカンナ盤」と「カッター切断機」を併用する。製造歩留まり率(容積換算)は1820%以上で、オガ粉の4~5倍。原材料費を5分の1、電気代も3分の1に抑制でき、オガ粉よりも製造費を低減することができた。

堆肥化処理でも、乳牛ふん尿1tに対し17.8kgの使用量で180日後に完熟堆肥となり、オガ粉と比べて1/10以

下の使用量に低減できる。敷料適正評価でも、牛群は普段から使用しているオガ粉よりも薄層加工資材の敷かれた牛床を選んだ。また、オガ粉と比べて使用前後の細菌数が極めて少なく水分活性も低いことから、環境性乳房炎への抑制効果も期待できる。

薄層加工資材の製造のための超仕上げカンナ盤(写真2)は基本的に木工メーカー以外は持っていないため、中古市場から調達するのが適当とみられる。

また、近所に生えている木でも、両面を太鼓落とし加工をしたものであれば利用可能。廃材についても、シロアリ対策剤のヒ素等を塗布していないものは利用しても問題ない。

留意点として、薄層加工資材は極めて燃えやすいため、火気厳禁であることを挙げている。

口蹄疫対策ポイント解説 感染予防の徹底を

本紙1面で、口蹄疫が韓国で発生したことを紹介した。2000年と10年に日本国内で発生した際は、いずれも国内発生前に韓国での発生が確認されている。

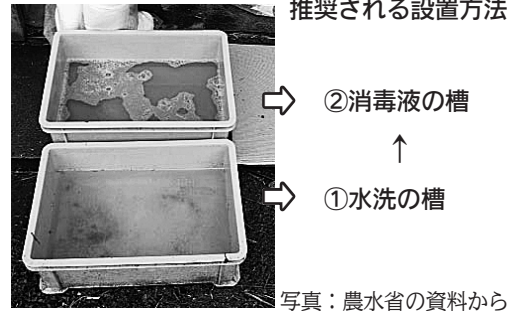
現在、国内への侵入リスクが極めて高い状況が続いているため、感染予防を徹底する必要がある。

〈感染予防の基本〉

農場の出入りに看板を設置するなどして関係者以外の立ち入りを制限す

る。農場に出入りする際は、専用の靴や衣服を着用し、手指を消毒するほか、持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底する。また、畜舎の出入りに専用の靴や踏み込み消毒槽などを設置することで、出入りする人の靴底の消毒も徹底する。

従業員も含め、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控え、発生国の農場からの郵便物などは衛生管理区域に持ち込まないようにする。



〈効果的な消毒〉

衛生管理区域に立ち入る場合には、専用の靴や衣服を着用し手指消毒を実施する。また、畜舎ごとに専用の靴または踏み込み消毒槽を設置し、使用する。

踏み込み消毒槽の消毒液は、汚れて効果が薄れるため、汚れを落としてか

ら消毒する。消毒薬が汚れてきた場合は直ちに交換する。農場に出入りする車両を消毒する時は、タイヤ以外にも泥よけの内側部分まで消毒する。そして、衛生管理区域内で降車する場合は農場専用のフロアマットなどの使用や車内(ハンドルやドアノブなど)の消毒を実施する。その際、逆性石けんやアルコールは口蹄疫の消毒薬としては向かないほか、酸性とアルカリ性の消毒薬を同時に使用すると消毒効果が弱まるので注意する。

これらのポイントに注意を払い、十分に口蹄疫対策を行いたい。

気象庁が全国の3ヵ月予報(6~8月)を発表した。全国的に平年並みか高い気温になると予測されるため、今年も暑熱対策に取り組みたい。

☆暑熱ストレスに警戒☆

肉用牛の適温域は、育成牛で4~20℃、去勢肥育牛で10~15℃が目安。適温域を超えた場合、体内の熱を放出するためにエネルギー消費量が増えるのに対し、飼料摂取量は減少してしまうため、生産性の低下につながる。

飼料は、日中を避け朝夕の涼しい時間帯に給与し、粗飼料は良質で消化の良いものを給与する。暑熱の影響で粗飼料の食いが落ちないように、暑熱対策専用の飼料や活性酵母、生菌剤を利用するのも手である。夏場は飲水量が多くなるため、清潔で新鮮な水を給与



換気扇の点検・掃除で快適に ハエ対策も徹底を

し、必要に応じてビタミンやミネラルの補給を行う。そして、密飼いを避けることで体感温度を下げ、夏バテを防止することで飼料効率を高めたい。

☆牛舎での環境対策☆

夏の西日は、牛舎の奥まで差し込み温度上昇の原因となる。寒冷紗やよしずによる日除け、樹木などによる緑のカーテンなどを用いて日陰を作る。

屋根からの熱も無視できない。牛舎の屋根に石灰を塗ることで、日差しを反射させることができる。その際、ドロマイト石灰を使えば従来よりも剝がれにくくなる。牛舎の屋根を二重にす

る方法や、井戸水を用いた屋根散水を行うことで断熱効果を得ている会員農家もいるので参考にしたい。

牛舎内では、屋根裏や壁などに断熱材を設置することで断熱効果が期待できる。現場では、換気扇の老朽化や掃除不足によって、十分に換気できていないケースがある。これは電気代ロスにもつながるため、点検や掃除を必ず行い、牛舎内の熱排出と体熱放散を助けるために有効活用したい。

☆ハエ対策でストレス回避☆

暑い時期は、ハエなどの虫の発生ピークである。伝染性疾患の病原体を持

ち込んだり、ストレスとなって生産性の低下を招くため、防除は重要となる。

ハエは、家畜のふん尿やこぼれた飼料、汚水だまりなど、水分や有機物が多い場所に産卵する。食べ残しやこぼした飼料はこまめに掃除する。また、早めにふんを取り除き、堆肥舎での発酵などで処理する。高温乾燥でふ化率が減るため、日光の熱を蓄えて堆肥の温度を上げたり、こまめに切り返して高温発酵を進めてふ化を防ぐ。

掃除が難しい場所はウジに効く殺虫剤や消石灰散布が効果的。成虫にはトラップや粘着シートの設置、殺虫剤の散布で対策するが、薬剤耐性や牛体にかからないようにするなど注意が多い。幼虫は成虫の4倍いるといわれており、発生源を潰すのが効果的である。

ユーグレナ×カギケノリ混合飼料 排出メタン量を軽減

牛などの反すう家畜が放出するメタンは、温室効果ガス全体の約5%を占めるとされ、その抑制と軽減が課題となっている。

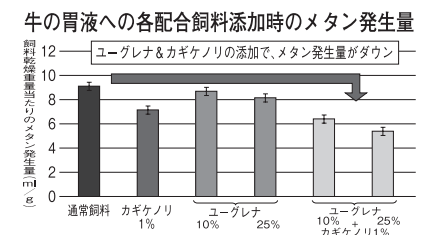
株式会社ユーグレナと帯広畜産大学の共同研究で、微細藻類ユーグレナ(ミドリムシ)と海藻のカギケノリの混合飼料が、反すう家畜の健康を損なうこ

となく排出メタン量を軽減することが発見された(写真)。研究では、飼料の一部をユーグレナとカギケノリの混合物に置き換え、家畜の健康とメタン排出量軽減との両方に配慮し、飼料代替できる最大の割合を検討した。

ユーグレナとカギケノリの様々な割合の飼料を作製し、牛から採取した胃

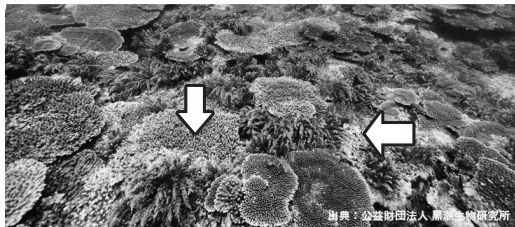
液に浸した後で発生するガス成分の変化を観察し、メタン発生量への影響を評価した。その結果、通常飼料と比べて、カギケノリ1%にユーグレナ25%を添加した飼料では、メタン発生量が40%減少したことが確認された(図)。

次に、第一胃内で産生される揮発性脂肪酸(主要エネルギー源。以下、VFA)の飼料による影響を調べた。同様に、ユーグレナとカギケノリの混合割合を変えた複数の混合飼料を作製し、測定した結果、一部でVFAの減少が認められ、増体に悪影響を及ぼす可能性が示された。



これらの研究結果から、カギケノリ1%にユーグレナを25%まで配合した組み合わせが、牛の健康に悪影響を及ぼさず、メタン排出量の軽減に寄与する可能性を示した。

同社は、今後も研究を続け、ユーグレナの飼料利用の事業化を目指すとしている。



左：ユーグレナ粉末(緑色、イメージ)、右：カギケノリ(赤紫色の海藻、イメージ)
写真・図ともに株式会社ユーグレナの資料から

畜産環境整備機構 堆肥のお悩み相談 今年も無料で可能

(一財)畜産環境整備機構は、畜産農家などの堆肥問題の現地調査・相談の受け付けを始めた。昨年度に続いて今年度も無料で行われる。

堆肥の熟成法、耕種農家の好む堆肥、堆肥製造のコスト高、堆肥の遠距離流

通などの問題に対し、堆肥製造などの専門家が派遣され、現地調査・相談を費用負担なしで受けられる。

この事業は、農水省の補助事業「堆肥流通体制支援事業」によるもの。詳しくは、同機構ホームページを参照されたい。

予算に限りがあるため、早めの連絡を呼びかけている。

後継者「決まっている」約3割 22年度 養豚農業実態調査

(一社)日本養豚協会は3月31日、22年度の「養豚農業実態調査報告書」を発表した。681件から回答を得たもの。後継者については、「決まっている」が26.6%、「後継者はいない、後継者は考えていない」が24.1%などで高い。

肉豚の出荷状況、繁殖・肥育等の成績は図のとおりとなっている。

肉豚の出荷状況(21年度の決算期間)

肉豚出荷日齢平均(生後日齢)	182.6日齢
平均出荷時体重	113.4kg
平均枝肉重量	74.7kg
1日平均増体重	621.0g/日

繁殖・肥育等の成績(21年度の決算期間)

平均哺乳開始頭数	11.5頭
平均離乳頭数	10.3頭
平均育成率	90.2%
平均分娩率	85.5%
母豚回転数	2.3回

(一社)日本養豚協会の資料から

たかがマダニされど危険 西日本から東へ勢力拡大

マダニを媒介としたSFTSウイルスによる感染症(重症熱性血小板減少症候群)が西日本を中心に広がっており、近年では富山などの北陸、東京、千葉の南関東でも確認され、東日本への広がりを見せている。

この感染症は、野生動物が運ぶマダニとの接触機会が増える春から秋にかけての感染が多く、農作業中の感染が半数以上を占めているので、注意が必要となる。これまで、全国に分布するフタトゲチマダニ(写真)と東北以南のタカサゴキラマダニの媒介が確認されている。

国立感染症研究所の調べでは、2013年に山口県で人への感染が確認されてから約10年間で800人以上が感染し、その約3割が死亡している。感染者数を県別で見ると(5月14日時点)、宮崎が最多の102人、広島75人、山口68人、高知67人、鹿児島66人、長崎62人、島根44人などとなっている。

今年の2月1日から5月14日の約3ヵ月半で42人が感染しており、感染のスピードが増している。

厚生労働省でも、21年3月に静岡県で東日本初、6月に愛知県での発生を公表している。また、17年にすでに千



葉県で発生していたことも確認された。

マダニは山林や草むら、ヤブなどに生息しており、近づいた動物や人に寄生し吸血する。体長は、種類にもよるが、成ダニで3~8ミリメートルと目視可能な大きさである。

予防法としては、長袖、長ズボンなどを着用して皮膚の露出を避け、ズボンやシャツの裾などを入れ込んでマダ

フタトゲチマダニ



(出典:国立感染症研究所ホームページ)

ニの侵入を防ぐことが有効。明るい色の服を着ると目視しやすい。

マダニに対する忌避剤(虫よけ剤)として、ディート、イカリジンの2種類が有効成分とされ、市販されている。

これまでも、農作業や屋外活動でマダニに噛まれた人も多いと思われるが、危険レベルを1段階アップして、危機管理を徹底したい。

牛枝肉

梅雨入りで荷動きが鈍く、弱もちあい続くか

5月は結婚式需要への期待も、残念ながら大きな動きは見られなかった。

北海道を除く全国で梅雨入りして、天候不順が続きそうな気配なので、しばらくは動きも鈍い状態が続きそう。台風も早い時期にやってきて、インバウンド景気に水を差すことになりそう。

部分肉では、ロース、カタロースの動きが鈍く、梅雨明けまでは弱もちあいが続く見込み。

輸入は前年より少なくなる見込み。

一方、6月の出荷頭数は全品種で前年同月を上回り、5月と比べてもやや増加する見込み。

【乳去勢】5月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速

報値)は、971円(前年同月比88%)となり、前月より108円下げた。

【F₁去勢】5月の東京食肉市場の雑種去勢税込み枝肉平均単価は、B3が1515円(95%)、B2が1351円(93%)だった。前月に比べ、B3は7円、B2は5円いずれも上昇した。

【和去勢】5月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2249円(96%)、A3が2028円(95%)だった。前月に比べ、A4が79円、A3は78円それぞれ下がった。

【輸入量】農畜産業振興機構は6月の輸入量を総量で4万8000t(前年同月比83%)と予測。内訳は、冷蔵品1万9100t(84%)、冷凍品が2万8900t(83%)。冷蔵品は、米国産が現地価格の高騰により、前年を下回るとみられる。冷凍品は、主要国である豪州産、米国産が下回るので、前年同月を大幅

に下回ると予測した。

相場が停滞する時期で、出荷頭数も多くなるので、相場は弱もちあいが続きそう。

早く梅雨が明け、夏本番の焼肉シーズンがきて、日本が活気づくことを期待する。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が950~1050円、F₁去勢B4が1550~1650円、同B3が1400~1500円、同B2が1250~1350円、和牛去勢A4が2250~2350円、同A3が2000~2100円での展開か。

豚枝肉

強もちあい続き上、中、並の差が狭まる

5月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が645円(前年同月比102%)、中物は630円(103%)となった。前月に比べそれぞれ83円、85円上がった。

6月初めには並でも700円を超えた日もあり、好調が続いている。

農水省の肉豚生産出荷予測による

素牛



スモール価格は上昇止まらず、強含みか

【スモール】5月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が6万9390円(前年同月比56%)、F₁(雄雌含む)は12万3340円(65%)となった。前月に比べ、乳雄は1万475円の上げで、F₁も1万1382円の上げとなった。

関東では、乳雄で10万円を超えている市場があり、頭数が少ないこともあり上昇は続きそう。F₁も北海道と関東で7万円以上の差があり、平均価格の上昇は続く見込み。

【乳素牛】5月の乳素牛の全国1頭

と、6月は131万1000頭(前年同月比98%)とやや減少の見込み。前月と比べると、2万4000頭減の見込み。今後も例年通り出荷頭数は減少傾向となる。

農畜産業振興機構の需給予測によると、6月の輸入量は総量で8万1900t(前年同月比92%)の見込み。内訳は、冷蔵品3万2900t(94%)、冷凍品4万9000t(91%)。

冷蔵品は前年同月よりかなり下回る。冷凍品も欧州の現地相場の上昇や為替の影響で、前年同月を大きく下回る予測。

出荷頭数が減少し、輸入量も前年を下回ることから、相場は強もちあい推移しそう。上、中、並の価格差も狭まってきている。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が650~700円、中物は600~650円で推移か。

5月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	731	662	320	301	178,012	138,633	556	461
	F ₁ 去	2,439	2,056	345	339	331,174	356,559	960	1,052
	和去	2,616	2,315	337	328	740,576	753,029	2,198	2,296
東北	乳去	-	0	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	3	5	337	323	257,033	228,140	763	706
	和去	2,596	4,870	327	326	605,829	669,016	1,854	2,054
関東	乳去	21	44	262	297	254,257	280,675	970	946
	F ₁ 去	160	172	360	354	352,262	362,488	977	1,025
	和去	724	852	332	315	671,328	720,595	2,023	2,289
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	0	75	-	277	-	629,405	-	2,272
東海	乳去	0	0	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	63	48	337	315	338,014	326,609	1,004	1,036
	和去	451	260	286	272	680,873	708,734	2,381	2,607
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	430	408	260	263	761,507	754,438	2,929	2,864
中四国	乳去	65	90	282	280	145,048	139,639	514	499
	F ₁ 去	286	252	332	329	355,392	364,227	1,069	1,106
	和去	638	1,055	313	308	609,233	671,155	1,948	2,177
九州・沖縄	乳去	17	0	327	-	138,535	-	424	-
	F ₁ 去	436	390	338	321	364,995	371,470	1,081	1,158
	和去	11,103	7,769	303	299	615,287	676,467	2,032	2,266
全国	乳去	835	796	316	298	176,357	146,598	558	492
	F ₁ 去	3,387	2,528	344	339	338,630	357,245	984	1,054
	和去	18,559	15,501	311	307	638,580	685,769	2,053	2,234

注：(独)農畜産業振興機構(alic)の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

畜産物需給見通し